



施設園芸技術指導士としての抱負

勝田 徹 東都興業(株) 営業本部

私はビニペットをはじめとする農業用ハウス資材メーカーである東都興業(株)で営業本部として、全国の営業支援を担当しております。はじめに、この度の新型コロナウイルス感染症の影響を受けた業界の皆様には、心よりお見舞い申し上げたいと思います。

さて、私は農業界に飛び込む前は衣料販売・小売業界におり、そこからの転身はいわば「異業種参入」で、はじめは「播種」「畝」といった言葉の読み方や意味すらわからないところからのスタートでした。それから15年という年月を経た現在、未だ学びの道半ばではございますが、施設園芸技術指導士を名乗れるようにまでになれたのは、農業の楽しさや可能性、ある時は厳しさといった業界の奥深さを、当時の上司や先輩方、担当したお客様方からご教授頂いたおかげだと思っております。

改めて私が業界に携わってきたこの15年という年月を振り返りますと、その間には業界に大きく影響を与えた出来事というものがあるように思います。例えばウルグアイラウンド、ミニマムアクセス、TPPといったグローバルで人為的なものから、震災、大型台風、大雪害、爆弾低気圧による施設被害といった予測できない自然災害まで様々です。そして現在も、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は未だ終息の見えない状況にあり、生産・販売環境を変えてしまうなど、農業界は少なからずこの影響の渦中にあります。

私はこのような局面に遭遇する度に、インフラとしての農業の社会的役割の重要性を実感すると共に、改めて営農の継続に欠かせないメーカーとして、当社の役割、供給する側の責任というものを痛感してきました。それは営農の継続=食料を供給するとい

うことが、生命の維持という一義的な意味から、経済的生業として、あるいは国家の安全保障にいたるまで多面的な要素を持っていると認識させられるからです。

残念ながら、今後を明確に予測するのが難しい現状ではありますが、農業界のインフラメーカーとしての責務を自覚しつつ、この度、施設園芸技術指導士として学んだ知識を活かして、業界の維持・発展に尽力したいと思っております。

最後に製品開発について述べさせていただきますと、令和も2年目を迎えた今年、農水省が進める事業ではスマート農業の普及や産地の維持・継承を政策目標に、現有資源であるパイプハウスを有効活用しようという方針が盛り込まれるようになりました。これは当社がこれまで56年という歳月を費やして、生産者様と共に築き上げてきた資源を活用しようという施策でもあると感じております。

当社は1970年にフィルム止め部材のスタンダードであるビニペットを開発して以来、施設園芸の課題に真摯に取り組んで参りました。近年では3本のリブ加工が特長の「ビニペットEX」や、強度と施工性を向上した「テイペットドアEX」「マルヒロドアEX」、ハウスの立体補強が可能な「トートラス」、換気の自動化や細かい温度管理が可能な「電動カンキットNシリーズ」など喫緊の課題である強靱化、省力化に資する資材を上市しております。

今後も丁寧に生産現場の声に耳を傾け、当社が大切にしてきた普及性にこだわった製品開発・販売を行い、生産者様から常に支持されるメーカーでありたいと思っております。

今後も東都興業の新たな提案にご期待ください。